

# 海外生活 エッセー

## シンガポール事務所

### シンガポールの自然

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 木村 華奈子 (富山県派遣)

予想以上に緑や自然に触れられる場所が多い——これはシンガポールに来て感じたことの1つです。シンガポールと日本とでは気候が違いうえに、シンガポールでは限られた国土で都市づくりを行う必要があるため、日本で見られる自然とはもちろん異なります。しかし、シンガポールでは至るところに緑化の工夫が施されており、さらには緑地公園や広場、熱帯雨林の原生林が残されている地区など自然豊かな施設や保護地区もあります。今回は筆者が感じたシンガポールの自然について紹介したいと思います。

#### → 都市づくりとともにある緑化推進

シンガポールでは、建国当初の1960年代、より良い住環境の整備と熱帯気候での暮らしにくさの緩和という観点から、リー・クワン・ユー初代首相は植樹キャンペーンを提唱しました。それから現在まで変わらず緑化が重要視されていますが、目指す都市の形は年月とともに変化してきました。初めは緑化都市「Garden City」でしたが、2010年代からは自然と共存した持続可能性のある都市「City in a Garden」へと目標転換しました。その後、2021年からは「City in Nature」を目標として、持続可能性だけでなく、気候レジリエンスも持ち合わせた都市を目指しています。

#### → ビルの中の庭園

特に高層ビルが並び立つオフィス街においては、シンガポールが都市づくりと緑化を同時に進めていることをはっきりと観察できます。例えば、51階建てで高さ約280mにもなる超高層ビルには屋上庭園と中庭があり、働く人々の憩いの場所となっています。また、どちらの庭園にもレストランが併設されており、庭園を眺めながらの食事も可能です。このほかにも壁面全体の緑化

やビルの周りへの植樹など、街中では多種多様な工夫を見ることができ、あらゆる場所で緑を感じられます。



51階建てビルの17階にある中庭

#### → 世界に誇る植物園

それだけでなく、シンガポールには自然豊かな施設や地区が多く存在します。中でもシンガポール植物園は1859年に開園した大変歴史のある場所で、シンガポール唯一の世界遺産です(2015年にユネスコ世界文化遺産に登録)。約82ha(東京ディズニーランド約1.6個分)もの広大な敷地には、さまざまなテーマで造られた庭園があり、特に「National Orchid Garden」では、さまざまな種類のラン(シンガポールの国花)を楽しめます。さらに、園内にはトレッキングコースや博物館・美術館などもあり、何回訪れても異なる楽しみ方ができるようにになっています。

今回は都市部の緑化とシンガポール植物園を紹介しましたが、そのほかにも至るところで緑や自然を感じられる工夫が施されています。シンガポールにはマリーナベイサンズやマーライオンなど多くの見どころがありますが、訪れた際には周りの自然にもぜひ目を向けてみてください。